



写真1 段丘崖 (撮影者 不明)

段丘地形って何？

海岸や河岸付近の地形をよく見ると、土地の形がまるで階段のように見える場所が八峰町にはたくさんあります。

写真1は泊川右岸（北側の岸）上空から南の方向を撮影したものです。写真の左手に見られる森は薬師山の麓にあたり、右手に見られる平地は本館や浜田、八森で使っている水田です。この平地を南北方向に崖が続いているのに気付かれたと思いますが、この崖を段丘崖と呼んでいます。

段丘崖ができる訳

一体この崖はどのようにして形作られたものでしょうか。写真2は日本海中部地震が発生したとき、鹿の浦展望

台の真下に来襲した津波の様子です。波が崖に当たり跳ね返っています。この時崖を削るのでありますが、この作用はなにも津波だけにかぎることではありません。普段に起こる大しけのときにも崖を削ります。このような作用が長い間続き、ついには崖ができあがります。

写真2 鹿の浦展望台に来襲した津波
撮影者 八田 忠雄氏

段丘崖が語る驚くべき話

さて、話を元にもどしましょう。写真1に見られる段丘崖がここにあるという事は、昔、ここは海岸であったと考えなくてはなりません。そうすると現在の浜田集落や水田は海の中であっ

たということになります。当然ながらここには人々は住むこともできなかったろうし、稲作もできなかったことになりそうです。

しかし現在、人々はここに家を建て稲作も行っています。この大地に何が起こったのでしょうか。

海岸線がどんどん沖に退いた？

この自然現象について考えをめぐらしてみると、どうしても海岸線が沖に退いたとしか考えられません。そんなことが実際に起こるものなのでしょうか。一つの考えとして、海の水を減らすことが出来れば説明できます。

しかしこれはおおごとで、単に八峰町付近の水を減らすだけではなく、日本海全域、ひいては地球全体の海水の量を減らさなければなりません。そんなことが出来るのでしょうか。

海水を減らす仕掛けは南極大陸（写真3）にありました。この写真は地球儀の南極が中心にくるようにして撮ったものです。見ての通り南極を中心とした広い範囲に氷を積もらせた大陸があるのです。氷の厚さは平均で2km、面積は1千万平方Kmもあり、一説によるとこの氷が全部溶けると現在の海水面が85m上昇するというのです。

そうすると、現在の海岸線はどんどん内陸に寄せてくることになります。地球の温暖化が心配されている理由もここにあります。

当然ながらこの逆の現象も考えられますね。もし地球が寒冷化すると今度は南極大陸の氷が厚くなって、その分だけ海水の量が減ります。すると海岸線は沖のほうに退くことになります。

つまり海岸線が沖あいに退いたり、または内陸に押し寄せたりする現象の仕掛け人は南極大陸であり、地球全体の気温の変化であるという事になります。

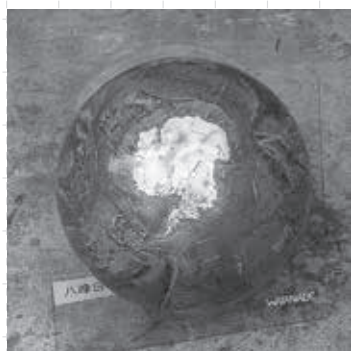


写真3 南極を中心に見た地球儀

八峰白神ジオパーク推進協議会

研究専門員 工藤 英美

八峰町八森三十釜一四四一

ぶなつこランド内

TEL 0185-177-3086